東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra

2020
4

オフィシャルサプライヤー
SONY
Rakuten
マルハン
LOTTE
ゆうちょ銀行

目次

2020年 4月
April 2020

4/12
プログラム 3
出演者プロフィール 4
楽曲紹介 7

4/14
Program 15
Artists Profile 16
Program Notes 19
Next Subscription Concerts 28

4/15
6月～7月の定期演奏会 30
6月定期の聴きどころ 31
News & Information 33
Photo Reports 34
2020シーズン 定期演奏会 ラインナップ 36
2020シーズン 午後のコンサート ラインナップ 39
賛助会 40
ご支援のお願い／チケットサービスより 43
東京フィルハーモニー交響楽団／楽団員一覧 47
理事･監事･事務局一覧 50

お願い： 演奏中はお手持ちの時計や電子機器のアラームが鳴らないようご注意ください。携帯電話、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。
演奏中および楽章間の入退場は他のお客様のご迷惑にもなりますのでご遠慮ください。

Attention: Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during the performance.
Late admittance will be refused during the live performance.

Copyright©1963, 1965, 1977, 1980. Copyright assigned 1999 to Amberson Holding LLC.
Leonard Bernstein Music Publishing Company LLC, Publisher.
Boosey & Hawkes, Inc., Sole Print Licensee
All Right Reserved. International Copying Secured.

中止公演

第936回オーチャード定期シリーズ　終演予定16:40

4.12(日)15:00開演　Bunkamuraオーチャードホール

第133回東京オペラシティ定期シリーズ　終演予定20:40

4.14(火)19:00開演　東京オペラシティ コンサートホール

第937回サントリー定期演奏会　終演予定20:40

4.15(水)19:00開演　サントリーホール 大ホール

指揮：佐渡 裕
ソプラノ：天羽明恵*
語り：原田美枝子*
合唱：晋友会合唱団(合唱指揮：清水敬一)*
児童合唱：東京少年少女合唱隊(児童合唱指揮：長谷川久恵)*
コンサートマスター：近藤 薫
副指揮：矢澤定明
字幕：語りテキスト=松岡和子／歌唱=高尾利数
字幕操作：Zimakuプラス

バーンスタイン：オーケストラのためのディヴェルティメント（約20分）

I.　セネットとタケット
II.　ワルツ
III.　マズルカ
IV.　サンバ
V.　ターキー・トロット
VI.　スフィンクス
VII.　ブルース
VIII.　追悼～行進曲《ボストン響よ、永遠なれ》

バーンスタイン：前奏曲、フーガとリフス（約10分）

I.　前奏曲
II.　フーガ
III.　リフス

― 休 憩（約15分）―

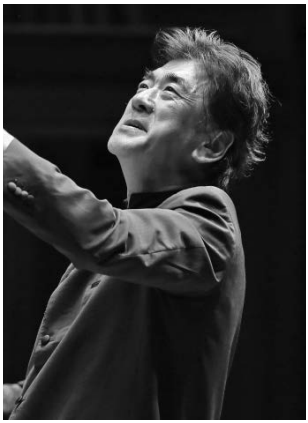
バーンスタイン：交響曲第3番『カディッシュ』*（約45分）

I.　祈り ― カディッシュ1
II.　ディーン・トーラー ― カディッシュ2
III.　スケルツォ ― カディッシュ3、フィナーレ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)｜
独立行政法人 日本芸術文化振興会
協力：Bunkamura (4/12)

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

出演者プロフィール



©Takashi Iijima

指揮

佐渡 裕

Yutaka Sado, conductor

京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン指揮者コンクール優勝。1995年第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクール優勝。パリ管弦楽団、ケルンWDR交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、北ドイツ放送交響楽団等一流オーケストラを多数指揮している他、海外でのオペラ公演でも実績を重ねており、オランジュ音楽祭での『蝶々夫人』(2007年)、トリノ王立歌劇場での『ピーター・グライムズ』(2010年)、『カルメン』(2012年)、『フィガロの結婚』(2015年)等を指揮。

2015年9月よりオーストリアを代表し、110年の歴史を持つトーンキュンストラー管弦楽団音楽監督に就任。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラの首席指揮者を務めている。最新盤はトーンキュンストラー管を指揮した13枚目のCD『マーラー:交響曲第2番<復活>』を2019年12月にリリース。著書に『棒を振る人生〜指揮者は時間を彫刻する〜』(PHP新書)等がある。

オフィシャルファンサイト:http://yutaka-sado.meetsfan.jp

ソプラノ

天羽 明恵

Akie Amou, soprano

©Akira Muto

超絶的なコロラトゥーラとリリックな声を併せ持ち、内外で高い評価を得ているソプラノ歌手。

1995年ソニア・ノルウェー女王記念国際音楽コンクール優勝。ジュネーヴ大劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー等ヨーロッパ各地の歌劇場や音楽祭に出演。国内でも新国立劇場、サントリーホール・ホールオペラなどへ定期的に登場し、主要なオーケストラの定期公演にもソリストとして出演している。

サントリーホール・オペラアカデミーのコーチング・ファカルティとして、若手の指導にも力を入れている。日本ロッシーニ協会運営委員。

公式ホームページ　http://akieamou.com/

語り

原田 美枝子

Mieko Harada, speaker

東京都出身。1974年映画デビュー。黒澤明監督の「乱」など日本を代表する監督の作品に多数出演。98年映画「愛を乞うひと」での日本アカデミー賞最優秀主演女優賞ほか、受賞歴多数。近年の出演作に、ドラマ「透明なゆりかご」「俺の話は長い」、舞台「誤解」「MOTHERS AND SONS」など。今春公開の、短編ドキュメンタリー映画「女優 原田ヒサ子」では制作・撮影・編集・監督も務めた。

公式ホームページ　http://www.my-pro.co.jp/aa/harada.html

©山口敦

合唱　晋友会合唱団（合唱指揮：清水敬一）

Shin-yu kai Choir (SIMIZU Keiiti, chorusmaster)

関屋晋を常任指揮者とした合唱団の集合体として活動を開始し、オーケストラとの共演を主たる活動としている。1980年小澤征爾指揮・新日本フィル『マーラー/Sym.No.8（千人の交響曲）』共演に際し、“晋友会合唱団”としてデビュー。ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ドレスデン国立歌劇場管ほか国内外のオーケストラ、またラトル、マゼール、佐渡裕ほかマエストロと共演し絶賛を浴びている。レパートリーは古典派・ロマン派から現代作品まで幅広く、その活動は国内はもとより海外からも注目を浴びている。常任指揮者を引き継いだ清水敬一は全国各地で合唱とオーケストラのための作品の合唱指揮を務め、初演した現代作品も数多い。現在、全日本合唱連盟およびJCDA日本合唱指揮者協会理事、東京芸術大学および同大学附属高等学校講師も務める。

©LSOT

児童合唱　東京少年少女合唱隊（児童合唱指揮：長谷川久恵）

The Little Singers of Tokyo (Hisae Hasegawa, children's chorusmaster)

ヨーロッパの伝統音楽に基づく音楽教育を目的とする日本初の本格派合唱団として1951年設立。グレゴリオ聖歌から現代作品までレパートリーは幅広く、同声から混声合唱作品の領域までをカバーする他、松平頼暁、一柳慧、細川俊夫等への委嘱作品も多く手掛けている。6歳からの基礎クラスと15歳から19歳までの演奏グループ「コンサートコア」の他、混声合唱作品にも対応する「カンマーコア」まで幅広い年齢構成で活動している。年2回の定期公演の他、1964年の訪米以来海外公演は33回を数える。国内外のオーケストラ、オペラ劇場との共演も多く、C.アバド指揮ベルリン・フィルをはじめ近年ではF.ルイージ指揮N響、R.ムーティ指揮東京・春・音楽祭で共演し高い評価を得た。2016年には創立65周年プロジェクトの一環でマカオ公演とイタリア公演を実施。イタリア各地の公演で絶賛され、元旦にはサン・ピエトロ大聖堂にてフランシスコ・ローマ教皇による新年ミサで全世界の聖歌隊と共に平和祈願を捧げた。

楽曲紹介

解説＝山田治生

バーンスタイン（1918 -1990）
オーケストラのためのディヴェルティメント

「オーケストラのためのディヴェルティメント」は、1980年にボストン交響楽団の創設100周年を記念して作曲された。ボストンの近郊で育ったレナード・バーンスタイン（1918 -1990）にとってボストン響は特別なオーケストラであった。学生時代からボストン響の演奏会に通っていた彼は、1940年代に当時ボストン響の音楽監督だったクーセヴィツキーに才能を見出されて、たびたびボストン響を指揮するようになる。1949年にはメシアンの「トゥランガリラ交響曲」の世界初演を同響を振って行った。それゆえに、ボストン響からの委嘱に応えて書かれたこの「ディヴェルティメント」には、バーンスタインのノスタルジックな思いが詰め込まれている。オーケストラのそれぞれのセクションが活躍するように書かれているのは、バーンスタインのボストン響への感謝の表れであろう。

第1曲：「セネットとタケット」。タイトルはシェイクスピア時代の要人の劇場への到着や式典の開始を告げたファンファーレを意味する。ド（C）とシ（B）による主題は、百周年（Centennial）のCとボストン（Boston）響のBから採られている。第2曲：「ワルツ」。弦楽器による8分の7拍子のワルツ。第3曲：「マズルカ」。ダブル・リードの木管楽器とハープによる楽章。最後にベートーヴェンの交響曲第5番のオーボエ・ソロが現れる。第4曲：「サンバ」。3番トランペットがソロを吹く。第5曲：「ターキー・トロット」。4分の4拍子と4分の3拍子が結合されているユーモラスな音楽。第6曲：「スフィンクス」。意味ありげで重々しくて短い間奏曲。第7曲：「ブルース」。ブラスと打楽器とピアノによる。第8曲：「追悼」～「行進曲《ボストン響よ、永遠なれ》」。3本のフルートによる「追悼」では、今は亡きボストン響の指揮者やメンバーをしのぶ。そして一転して、華やかな「行進曲」となる。バーンスタインが子供の頃にボストン・ポップスで聴いた「ラデツキー行進曲」が姿を変えて現れる。

[作曲年代] 1980年　**[初演]** 1980年9月25日　小澤征爾の指揮、ボストン交響楽団の演奏による
[楽器編成] ピッコロ、フルート3（3番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、Es [Eb]クラリネット、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、打楽器（タンブリン、小太鼓4、中太鼓、大太鼓、ボンゴ3、コンガ2、ドラムセット、トライアングル、クラッシュ・シンバル、サスペンテッド・シンバル、タムタム、カウベル2、ウッドブロック、テンプルブロック4、ギロ、マラカス、サンドペーパーブロック、シロフォン、グロッケンシュピール、チューブラーベル）、ハープ、ピアノ、弦楽5部

バーンスタイン（1918 -1990）
前奏曲、フーガとリフ

バーンスタインの代表的なジャズ作品である「前奏曲、フーガとリフ」は、ウディ・ハーマンの委嘱を受けて1949年に作曲されたが、ハーマン楽団の事情で、初演されないまま放置されていた。結局、初演は、1955年、テレビ番組「オムニバス」の「ジャズの世界」の回のなかで行われた。そのとき、作曲者自身がスタジオのバンド（ABC-TVスタジオ・バンド）を指揮して、クラリネット・ソロをアル・ガッロドーロが吹いた。作品は、ベニー・グッドマンに捧げられている。バーンスタインとグッドマンは1940年代から親交があった。

全体は3つの部分からなり、「前奏曲」ではトランペットやトロンボーンが活躍、「フーガ」はサクソフォンのアンサンブルによる、そして「リフ」ではクラリネットのソロがスウィングする。

※「前奏曲、フーガとリフ」の表記は筆者の意向による。

[作曲年代] 1949年　**[初演]** 1955年10月16日放送　ニューヨークにて、作曲家自身の指揮、アル・ガッロドーロのソロ・クラリネットによる
[楽器編成] アルト・サックス2（1番はクラリネット持ち替え）、テナー・サックス2、バリトン・サックス、トランペット5、トロンボーン4、ティンパニ、打楽器（小太鼓、大太鼓、ハイハットシンバル、タムタム4、ウッドブロック、シロフォン、ヴィブラフォン）、ピアノ、コントラバス（ソロ）

バーンスタイン(1918 -1990)
交響曲第3番『カディッシュ』

交響曲第3番『カディッシュ』は、バーンスタインにとっての最後の交響曲である。『カディッシュ』とは、死者に捧げるユダヤ教の祈りの言葉であり、「聖化」を意味する。この作品では、ユダヤ教徒である彼の、神に対する愛憎入り混じった複雑な感情が吐露されている。バーンスタインは、人間の危機的な状況に対して何も応えてくれない神に対して、懐疑を抱き、怒りに近い気持ちをぶつける。しかし、最終的には、神と和解し、ともにあることを呼びかける。

合唱や独唱者に歌われる歌詞は、『カディッシュ』の祈りから採られ、ヘブライ語、アラム語(イエスが使っていた言葉)で書かれているが、語りのテキストは、バーンスタイン自身によって英語で書かれ、彼の思想がストレートに表わされている。

交響曲第3番『カディッシュ』が世界初演される直前の1963年11月22日に、J.F.ケネディ米国大統領が暗殺され、この作品はケネディに捧げられた。その後、1977年に改訂が施され、それが現行版となっている。バーンスタインは、ユダヤ教の祈祷に基づくこの交響曲のあと、1971年にカトリックの典礼を基にした『ミサ』を完成させ、既成の宗教的な権威への異議申し立てをする。

交響曲第3番『カディッシュ』には、3つのカディッシュが含まれる。第1楽章の不安定なカディッシュが、第2楽章のソプラノ独唱が歌う子守歌のようなカディッシュを経て、第3楽章の児童合唱が歌う喜ばしいカディッシュへと至る。また、バーンスタインは、この交響曲において、当時の作曲界を席巻していた無調性と自らが信じていた調性との葛藤も表現した。

第1楽章:「祈り」。父なる神との対話が始まる。語り手が「カディッシュを唱えたい」という。そして、混声合唱による「カディッシュ1」。語り手は冷静に偉大なる神を讃える。

第2楽章:「ディーン・トーラー(神の戒律による試練)」。語り手は沈黙する神に訴えかける。新たに見出した火とは、原子爆弾のことを指すのであろう。神への怒りが表明される。合唱は「アーメン」を繰り返し、遂にカオスに至る。語り手は、神への謝罪を述べ、神へ同情を寄せる。「カディッシュ2」ではソプラノ独唱が優しく

子守歌のように歌う。語り手は夢のなかで神と和解することを願う。

第3楽章：「スケルツォ」。語り手は、神に対して、人間を信じることを訴える。ヴィオラが感動的な旋律を始め、音楽が高揚する。語り手が「信じてください」と叫び、児童合唱が晴れやかに「カディッシュ3」を歌う。そのあと、管楽器の強奏とともに「フィナーレ」となる。オーボエの長いソロのあと、弦楽器に再び感動的な旋律が現れる。新しい一日の夜明け。音楽が高まり、語り手は神に「お互いを作り直し合おう」と呼びかける。そして「フーガ」に入り、合唱がフーガを展開。オーケストラ全体が感動的な旋律を奏で、最後は、ソプラノ独唱が先導するアーメンで締め括られる。

[作曲年代] 1963年　**[初演]** 1963年12月10日　イスラエルのテルアビブにて、作曲家自身の指揮による
[楽器編成] フルート4（3番はアルト・フルート持ち替え、4番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、Es［E♭］クラリネット、クラリネット2、バス・クラリネット、アルト・サックス、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット4（4番はピッコロトランペット持ち替え）、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、打楽器（タンブリン、ハンド・ドラム、小太鼓、中太鼓、フィールド・ドラム、大太鼓、ボンゴ3、トライアングル、フィンガー・シンバル、アンティーク・シンバル、クラッシュ・シンバル、サスペンデッド・シンバル2、タムタム、テンプルブロック3、ウッドブロック、サンドペーパーブロック、ギロ、鞭、ラチェット、マラカス、クラベス、シロフォン、ヴィブラフォン、グロッケンシュピール、チューブラーベル）、ハープ、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部、ソプラノ独唱、混声合唱、少年合唱、語り

やまだ・はるお（音楽評論家）／1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人』、『トスカニーニ』（以上、アルファベータ）、編著書に『戦後のオペラ』（新国立劇場情報センター）、『オペラガイド（大人の観劇）』（成美堂出版）、訳書に『レナード・バーンスタインザ・ラスト・ロング・インタビュー』（アルファベータ）などがある。

These concerts are cancelled

The 936th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. April 12, 2020, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 133rd Tokyo Opera City Subscription Concert
Tue. April 14, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 937th Suntory Subscription Concert
Wed. April 15, 2020, 19:00 at Suntory Hall

Yutaka Sado, conductor
Akie Amou, soprano
Mieko Harada, speaker
Shin-yu kai Choir (chorusmaster: SIMIZU Keiiti)
The Little Singers of Tokyo (children's chorusmaster: Hisae Hasegawa)

Kaoru Kondo, concertmaster
Sadaaki Yazawa, assistant conductor
Kazuko Matsuoka, Japanese speechtext subtitles
Toshikazu Takao, Japanese lyrics subtitles
Zimaku Plus, subtitles operator

12 Apr
14 Apr
15 Apr

Leonard Bernstein: Divertimento (ca. 15 min)

I. Sennets and Tuckets
II. Waltz
III. Mazurka
IV. Samba
V. Turkey Trot
VI. Sphinxes
VII. Blues
VIII. In Memoriam; March, "The BSO Forever"

Leonard Bernstein: Prelude, Fugue and Riffs (ca. 10 min)

I. Prelude
II. Fugue
III. Riffs

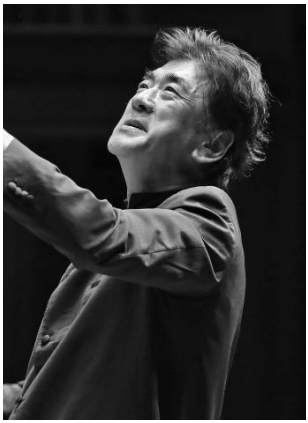
— intermission (ca. 15min) —

Leonard Bernstein: Symphony No. 3 "Kaddish" (ca. 40 min)

I. Invocation – Kaddish 1
II. Din-Torah – Kaddish 2
III. Scherzo. Kaddish 3 – Finale

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan ¦
Japan Arts Council
In Association with Bunkamura (Apr. 12)

Artists Profile



©Takashi Iijima

Yutaka Sado, conductor

Yutaka Sado's successful fifth season as the Music Director of the Tonkunstler Orchestra has lead them to the extension of the contract to the 2024/25 season. A long-time assistant to Leonard Bernstein and Seiji Ozawa, Sado appeared with renowned orchestras such as Berlin Philharmonic, Bayerische Staatsorchester, London Symphony Orchestra, Orchestre de Paris, WDR Sinfonieorchester Koln, NDR Hamburg, and Bayerischen Rundfunks Munchen.

A native of Kyoto, Japan and a recipient of the Premier Grand Prix critics at the 39th International Conducting Competition in Besancon and the Leonard Bernstein International Conducting Competition in Israel, Sado currently serves as the Artistic Director of the Hyogo Performing Arts Center and of its resident orchestra.

Yutaka Sado's many-facetted musical achievements have been documented in numerous CDs and DVDs. His three latest releases are from Tonkunstler Orchestra's own label; "Symphony No.2 Resurrection", "Symphony No.5" by Gustav Mahler, and "The Creation" by Haydn.

Akie Amou, soprano

©Akira Muto

Akie Amou's lyric coloratura voice has enabled her to perform in theatres and festivals throughout Europe, and she has also appeared with leading orchestras in Japan. In 1995, she was a winner of the highest award at the 3rd Queen Sonja International Music Competition.

She is appearing on opera houses and music festivals of various parts of Europe, such as Grand Théâtre de Genéve, Semperoper Dresden, Komische Oper Berlin.

Ms. Amou is also the winner of the Arion Prize in 1999 and Nippon Steel Music Award's Promising New Artist Prize in 2003.

She gives high priority to young instruction as a key role member of the Suntory Hall opera academy.

12 Apr
14 Apr
15 Apr

Mieko Harada, speaker

Born in Tokyo, Mieko Harada made her screen debut in 1974. She appeared in many films by Japanese leading directors, including Akira Kurosawa's "Ran". She received many prizes, including The Outstanding Performance by an Actress in a Leading Role at the Japan Academy Prize ceremony for "Begging for Love", in 1998. She performs in number of recent cinematic and stage dramas, such as "Tomei na Yurikago" ("An Invisible Cradle"), "Ore no Hanashi wa Nagai" ("If Talking Paid"), stage "Gokai" "The Misunderstanding", "Mothers And Sons", and more. She is currently directing, filming, and editing a short documentary film, "Actress Hisako Harada", coming out this spring.

©山口敦

Shin-yu kai Choir (SIMIZU Keiiti, chorusmaster)

The Shin-yu kai Choir began as a group of choirs directed by late Shin Sekiya, Resident Conductor, mainly performing with orchestras. They debuted in 1980, performing Mahler's Symphony No.8 with the New Japan Philharmonic, conducted by Seiji Ozawa. Shin-yu kai is highly acclaimed in performances with Japanese and international orchestras and conductors, such as the Berlin Philharmonic, the Vienna Philharmonic, the Staatskapelle Dresden, Simon Rattle, Lorin Maazel, Yutaka Sado, and more. Maestro SIMIZU Keiiti has premiered many contemporary works as a chorusmaster. He teaches at Tokyo University of the Arts and the Music High School attached to the university.

©LSOT

The Little Singers of Tokyo
(Hisae Hasegawa, children's chorusmaster)

The Little Singers of Tokyo was founded in 1951 with the concept "for Japanese children to sing Renaissance works". The founding spirit continues today, with a repertoire centering around authentic choral works based on traditional European music, and covers a wide range from Gregorian Chants to contemporary works. In addition to regular concerts, LSOT has made 33 overseas concert tours. They have also appeared with many orchestras and opera theaters both from Japan and abroad, and have performed with maestros such as Abbado, Luigi and Muti.

Program Notes

by April L. Racana

Leonard Bernstein (1918-1990)
Divertimento

"Leonard Bernstein's *Divertimento* is an expression of his love affair with the city of his youth and its symphony orchestra, for whose centennial celebration in 1980 it was written. It is a nostalgic album filled with affectionate memories of growing up in Boston, as well as a recollection of hearing live symphonic music for the first time in Symphony Hall, under the direction of Arthur Fiedler (which may account for some of the lighthearted nature of this work)." These notes were written by Jack Gottlieb (Bernstein's editor and assistant) as a preface to the score, with the composer's dedication reading: "with affection to the Boston Symphony Orchestra in celebration of its First Centenary."

Bernstein went on to describe his own thoughts on his dedication, with a somewhat tongue-in-cheek humor: "When Stravinsky wrote his *Symphony of Psalms*, commissioned by the BSO in honor of its fiftieth birthday, he dedicated the work to the glory of God and the Boston Symphony Orchestra. This dedication elicited a witty reaction at the time: 'That is what you call making the best of two worlds at once.' If I dared to put myself in Stravinsky's league, I'd follow his example by having the double dedication: 'To the Boston Symphony Orchestra and My Mother.' Or I might even go one better by offering a *triple* dedication: 'To the Boston Symphony Orchestra, My Mother, and Boston, my old home town.'"

Gottlieb goes on to describe the eight sections of the work as "a series of vignettes based on two notes: B, for 'Boston', and C, for 'Centennial.' This tiniest of musical atoms is used as the germ of all thematic ideas…". The first section 'Sennets and Tuckets' refers to a stage direction from Shakespearian times when a fanfare is called for, and was originally intended to comprise the entire work, but Bernstein's creative juices apparently continued to flow

with the B-C thematic material, leading to the development of eight brief movements. And while the entire work is scored for a full orchestra, some movements highlight smaller sections of the ensemble.

The second section, 'Waltz' is presented in 7/8 meter and features the strings, while the 'Mazurka' highlights oboes and bassoons together with the harp. The 'Blues' movement turns to the brass and percussion families. And although most of the music aptly falls in line with the title — presenting lighthearted tunes, the final section 'In Memoriam' opens with three flutes on a more solemn note, as a special tribute to honor "the conductors and members of the Boston Symphony Orchestra no longer with us," before breaking into the final 'March' to close the commissioned work. As Gottlieb concludes, *Divertimento* is "replete with allusions to the repertoire with which Mr. Bernstein grew up in Symphony Hall, some quite obvious, others more secret messages for the players themselves." Seiji Ozawa conducted the premiere by the Boston Symphony Orchestra in September of 1980 at Symphony Hall in Boston, Massachusetts.

Work composed: 1980 **World premiere:** September 25, 1980 in Boston conducted by Seiji Ozawa with the Boston Symphony Orchestra
Instrumentation: picclo, 3 flutes (3th doubling on piccolo), 2 oboes, english horn, 2 clarinets, E♭-clarinet, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, 4 snare drums, tenor drum, bass drum, 3 bongos, 2 congas, drum set, triangle, crush cymbals, suspended cymbal, tam-tam, 2 cowbell, 4 temple blocks, wood block, güiro, maracas, sandpaper blocks, xylophone, glockenspiel, tubular bells), harp, piano, strings

Leonard Bernstein (1918-1990)
Prelude, Fugue and Riffs

Premiering in October of 1955 as one of seven *Omnibus* television special installments, Bernstein's "Prelude, Fugue and Riffs" was presented at the end of the program entitled 'The World of Jazz.' Other installments featured insights on the music of Beethoven, Bach and Stravinsky, as well as American musical theater, and were well-received, some becoming classic educational models prior to the composer's celebrated Young People's

Concerts. In the installment focused on Jazz music, Bernstein would highlight the use of syncopations and improvisation, as well as the particular tone colors of featured jazz instruments in both blues and jazz pieces. So it was natural for the composer to close that program with this original work attempting to fuse classical forms with jazz idioms.

However, the piece had been composed a number of years earlier, commissioned for Woody Herman's jazz band and completed around 1949, but was ultimately never performed by that group due to it disbanding before the work was completed. After a revision in 1952, which included a reduction in the instrumentation, the composition was considered as a ballet scene for the musical 'Wonderful Town'. But that scene was eventually cut from the show, with only short excerpts incorporated into two numbers.

Bernstein would return the score to his 'files' where it would sit for several more years before finding its ideal opportunity as part of the *Omnibus* television series. The composer conducted the premiere on that broadcast, presenting the three sections without break, each movement highlighting elements of a traditional swing band. The 'Prelude' features the trumpets and trombones together with percussion, while the 'Fugue' presents five saxophones with light percussion and double bass added. 'Riffs' spotlights the solo clarinet with playful interchanges with the piano initially, before incorporating the rest of the ensemble giving each in turn their own 'riff', and building to a closing climax in a typical swing band style.

Although originally written for Woody Hermann, the ultimate dedicatee was Benny Goodman, though the premiere featured Al Gallodoro on clarinet. The score is said to "reflect Bernstein's unique ability to embrace a style and make it his own" with some scholars noting there may have been hints of what was to come in the composer's 'Rumble' music from West Side Story.

Work composed: 1949 **World premiere:** October 16, 1955 in New York conducted by the composer with Al Gallodoro on clarinet
Instrumentation: 2 alto saxophones (1st doubling on clarinet), 2 tenor saxophones, baritone saxophone, 5 trumpets, 4 trombones, timpani, percussions (snare drum, bass drum, hi-hat cymbals, 4 tam-tam, wood block, xylophone, vibraphone), piano, solo contrabass

Leonard Bernstein (1918-1990)
Symphony No. 3 "Kaddish"

Bernstein's Third Symphony premiered in 1963, only weeks following John F. Kennedy's assassination. Having been a friend of the family as well as a supporter of the President, the composer was impacted greatly by the loss himself and dedicated this "Kaddish" in his memory. According to tradition, 'Kaddish' is a prayer for the dead even though it never actually includes the word death anywhere in the text. Some say it is also a celebration of life, so it was a fitting tribute on both counts it seems.

However, initially when composing the work, Bernstein is believed to have been exploring his "lifelong issues of personal faith, the elusive concept of peace and the conflict arising from our great human potential for, and attraction to, destruction" as described by conductor Marin Alsop who was also a protege of Bernstein. The composer wrote the libretto himself, and intentionally chose a woman as the narrator, with his wife featured in the role for the premiere. He commented: "I originally wrote it to be spoken by my wife and I wrote it for a woman although women are not officially supposed to say Kaddish in the old tradition....I wrote it for [a woman] because the essence of the speaker was the female side of all persons male or female. We all have this female side that is more intuitive and not so reliant on logical thought process .... I wrote it for that side of man, the female side…" [from NHK Interview, 1985]

Later, Bernstein would revise the work, especially the narrative text, stating: "In my fervor to make it [Kaddish] immediately communicative to the audience, I made it over communicative…. [it was] over verbose and I did enormous cutting. But it's still too much. And I do wish I could revise it…and cut it down." [Interview w/J. Gruen, Italy 1967] In 1977, he did eventually make significant cuts and revisions, allowing the narrator to be either a man or a woman, commenting: "[The reason for the new version of the Kaddish Symphony is] because I wasn't satisfied with the old version. There was too much talk... The piece is essentially the same except better. It is tighter, shorter, there are cuts, there is some musical re-writing and a lot of re-writing of the spoken text. [The speaker is also now a man but] I did not change from a woman to a man. I changed so that it could be either... The original idea was

that it was a woman because…it was that part of man that intuits God…. And then I realized that that was too limiting. So I made it for either." [Berlin Press Conference, Sept. 1977]

Incorporating "the most extended 12-tone writing of any piece I have ever done", Bernstein attempts to portray the conflicting emotions of the hopes and concerns of his faith in humanity, with the tonal and atonal musical sections depicting the extremes of both. The text even has the narrator questioning God, with the music building to a frenzied climax, especially in the chorus as well as in the percussion section. This is soon countered by the entrance of the boys chorus in a heavenly Hebrew prayer, and representing the hopeful side of humanity. In the final section, the music ends with the full chorus returning to some dissonance, and as Marin Alsop suggests, perhaps representing the idea that "Peace continues to elude us," and making this work as relevant today as it was when it was first composed.

Work composed: 1963 **World premiere:** December 10, 1963 in Israel conducted by the composer
Instrumentation: 4 flutes (3rd doubling on alto flute, 4th doubling on piccolo), 2 oboes, english horn, E♭-clarinet, 2 clarinets, bass clarinet, alto saxophone, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 4 trumpets (4th doubling on piccolo trumpet), 3 trombones, tuba, 5 timpani, percussion (tambourine, hand drum, snare drums, tenor drum, field drum, bass drum, 3 bongos, triangle, finger cymbals, antique cymbals, crush cymbals, 2 suspended cymbals, tam-tam, 3 temple blocks, wood block, sandpaper blocks, rasp, whip, ratchet, maracas, claves, xylophone, vibraphone, glockenspiel, tubular bells), harp, piano, celesta, strings, soprano solo, mixed choir, boys' choir, speaker

April L. Racana / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University's Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.

東京フィルだより

6月の定期演奏会

好評発売中

ミハイル・プレトニョフ ©上野隆文

第938回オーチャード定期演奏会
6月21日(日)15:00
Bunkamura オーチャードホール

第134回東京オペラシティ定期シリーズ
6月22日(月)19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第939回サントリー定期シリーズ
6月24日(水)19:00
サントリーホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

ビゼー＝シチェドリン／カルメン組曲
チャイコフスキー／組曲第3番

7月の定期演奏会

好評発売中

チョン・ミョンフン ©上野隆文

服部百音 ©Chihoko Ishii

7月15日(水)19:00
サントリーホール

第135回東京オペラシティ定期シリーズ
7月17日(金)19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第941回オーチャード定期演奏会
7月19日(日)15:00
Bunkamura オーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン
ヴァイオリン：服部百音*

ベートーヴェン／ ヴァイオリン協奏曲*
交響曲第3番『英雄』

【料金】SS(限定プレミアシート)¥15,000　S¥10,000　A¥8,500　B¥7,000　C¥5,500
※残席状況は東京フィルチケットサービスまでお問合せください。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

Tel：03-5353-9522(10時～18時／土日祝休)
URL：https://www.tpo.or.jp/(24時間受付・座席選択可)
E-mail：concert@tpo.or.jp（お問合せ受付のみ）

6月定期演奏会の聴きどころ

東京フィル特別客演指揮者　ミハイル・プレトニョフ　©上野隆文

特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフが振る ロシア／ソヴィエトプログラムへの期待

宮澤淳一（音楽評論家）

東京フィルに限らず、オーケストラのコンサートで最も頻繁に演奏されるチャイコフスキーの音楽と言えば、交響曲第4番、第5番、第6番『悲愴』だろう。これら「後期三大交響曲」それぞれの作曲年を確かめると――1878年（38歳）、1888年（48歳）、1893年（53歳）。第4番と第5番のあいだには10年の空白がある。この10年間はチャイコフスキーの名声が高まった時期だ。しかしこれは「放浪の時代」でもあった。1877年の結婚に失敗し、妻から逃れるようにロシアの国内外を転々と暮らしていたのだ。そしてこの10年間はめぼしい作品が比較的少ない。本人も創作の行き詰まりを感じることがあったようで、「スランプの時代」と呼ばれもする。

この時代に生まれたのが管弦楽組曲だ。今日では実演の機会は少ないが、4つもあり、なかなか興味深い。それぞれに含まれている小曲の形式や様式は、ワルツ、行進曲、ガヴォット、メヌエット、ジーグ、間奏曲、変奏曲、フーガなど多岐にわたり、どれも生彩と創意に富む。バロック・古典風の曲も多く（第4組曲はモーツァルトの小品の編曲集である）、チャイコフスキーとしては、スタイルや性格付けの勉強・実験として、これらを作り、霊感を高めた面もあるようだ。

2019年3月定期ではハチャトゥリアン&チャイコフスキーを取り上げるなど、独自のプログラムで人気を博しているプレトニョフ ©上野隆文

組曲第3番ト長調作品55は、1884年の作品（翌年初演）で、4曲で構成される。チャイコフスキーは交響曲を構想したが（最初に書いたのは3曲目のスケルツォだった）、最終的にはあくまで組曲として完成させた。どういうことか？

そこで、実際に**第1曲「エレジー（悲歌）」**から聴いていけば、納得するはずだ。題名とは裏腹に、冒頭から密やかで優美な長調の旋律が、懐かしい昔話をするかのように語りかけてくる。オペラかバレエの一場面を見ているような気持ちにさせられる。メランコリックでもあり、劇的要素も含まれてはいるけれど、交響曲三大交響曲で築いた「運命との対決」といった大きな物語とは無縁の世界がそこにある。続く**第2曲「憂鬱なワルツ」**も甘美な情景を喚起させはするものの、大きなドラマには発展しない。**第3曲「スケルツォ」**もどこか控えめである。最も意匠を凝らしているのは**第4曲「主題と変奏」**だが、もはや交響曲の終楽章の緊迫感はない。計12の変奏それぞれが躍動的かつ性格的で、バレエのようだ。最終変奏の豪華な盛り上がりなど、まさにバレエの大団円にほかならない。組曲でのチャイコフスキーは、第4交響曲で選んだシリアスな方向とは別の、夢見るような境地を見つけてしまったのだ。それは組曲として緩やかに束ねるしかなかったのではないか（そう言えば、組曲『くるみ割り人形』はバレエ音楽の抜粋だ）。

興味深いのは、組曲第3番は当時好評であったらしく、チャイコフスキーみずからが欧米の客演先で頻繁に指揮した事実だ。つまり、本人の名声の高まりにも貢献した作品なのだ。チャイコフスキーは音楽史上初めて国際的に認められたロシアの作曲家である。その実像を再認識するためにも、彩り豊かな演奏を得意とするプレトニョフの指揮で、シチェドリンの『カルメン組曲』とともに、これを楽しみたい。

みやざわ・じゅんいち／音楽評論家。青山学院大学総合文化政策学部教授。著書に『グレン・グールド論』（春秋社・吉田秀和賞）、共著に白石美雪編『音楽論』（武蔵野美術大学出版局）。訳書に『リヒテルは語る』（ちくま学芸文庫）、『改訂新版 音楽の文章術』（共訳、春秋社）など。

Photo Reports　2020年2月のステージより

2月前半に開催された千葉市定期演奏会と休日の午後のコンサートでは、第16回グリーグ国際ピアノコンクールを制した髙木竜馬によるグリーグのピアノ協奏曲と、“炎のコバケン”ことマエストロ小林研一郎お得意のチャイコフスキーの名曲をお贈りしました。
2月定期演奏会では名誉音楽監督チョン・ミョンフンがシーズン初登場。作品の本質に迫るドラマティックな指揮で不朽の名作『カルメン』をオペラ演奏会形式でお届けしました。

第52回千葉市定期演奏会
2月9日(日)千葉市民会館

第83回 休日の午後のコンサート<ザ・コバケンⅡ>
2月11日(火・祝)東京オペラシティ コンサートホール

指揮：小林研一郎　　ナビゲーター：朝岡聡(2/11)
ピアノ：髙木竜馬＊　　コンサートマスター：三浦章宏

チャイコフスキー／歌劇『エフゲニー・オネーギン』より“ポロネーズ”
グリーグ／ピアノ協奏曲＊
ソリスト・アンコール
　グリーグ／叙情的小曲集　第5集第4曲「ノットゥルノ」
チャイコフスキー／交響曲第4番
オーケストラ・アンコール
　ロンドンデリーの歌(ダニー・ボーイ)～アイルランド民謡～

もはや代名詞とも言える小林研一郎のチャイコフスキー

新進気鋭のピアニスト髙木竜馬が“午後コン”初登場

終演後のツーショット。2公演とも満員のお客様に音楽をお届けでき笑顔のお二人

2月定期演奏会
2月19日(水) 東京オペラシティ コンサートホール
2月21日(金) サントリーホール
2月23日(日・祝) Bunkamuraオーチャードホール

撮影=上野隆文

指揮：チョン・ミョンフン
カルメン：マリーナ・コンパラート
ドン・ホセ：キム・アルフレード
エスカミーリョ：チェ・ビョンヒョク
ミカエラ：アンドレア・キャロル
スニガ：伊藤貴之
モラレス：青山貴
ダンカイロ：上江隼人
レメンダード：清水徹太郎
フラスキータ：伊藤晴
メルセデス：山下牧子
合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：冨平恭平)
児童合唱：杉並児童合唱団(児童合唱指揮：津嶋麻子)
コンサートマスター：三浦章宏

ビゼー／歌劇『カルメン』(演奏会形式)

「とてもよく知られたオペラは、時々、コンサート形式で演奏するのが良い」と語ったマエストロ・チョン・ミョンフン

チョン・ミョンフンと東京フィルが贈るオペラ演奏会形式は『カルメン』で6作目

3公演とも盛大な拍手と喝采に包まれました

終演後、マエストロを囲んで

陽春の候、皆様におかれましてはご壮健のこととお喜び申し上げます。
新たな門出を彩るような、楽団員の贈る晴れやかな演奏をお楽しみください。
引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長　三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、
法人並びに個人（パートナー会員）の皆様のご寄附により支えていただいております。
ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル･サプライヤー（敬称略）

ソニー株式会社	代表執行役　社長 兼 CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛膓 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順 ·敬称略）

(株)IHI	代表取締役社長	満岡 次郎
(株)アイエムエス	取締役会長	前野 武史
相澤内科医院	理事長	相澤 研一
アイ･システム(株)	代表取締役会長 兼 社長	松﨑 務
(株)アシックス	代表取締役会長CEO	尾山 基
(株)インターテクスト	代表取締役	海野 裕
ANAホールディングス(株)	代表取締役社長	片野坂 真哉
(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長	安齋 尚志
桜美林大学	総長	佐藤 東洋士
大塚化学(株)	特別相談役	大塚 雄二郎
(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長	松下 和雄
(公財)オリックス宮内財団	代表理事	宮内 義彦
花王(株)	代表取締役 社長執行役員	澤田 道隆
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏
キヤノン(株)	代表取締役会長 CEO	御手洗 冨士夫
(株)グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋

(株)ケイブ	取締役会長	高野 健一
(医)浩仁会　矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
ジューテックホールディングス(株)	代表取締役社長	足立 建一郎
菅波楽器(株)	代表取締役	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニー(株)	代表執行役 社長 兼 CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント	代表取締役社長	村松 俊亮
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	好本 達也
高砂熱学工業(株)	代表取締役社長	小島 和人
(株)タクト	代表取締役	苗代 政治
都築学園グループ	総長	都築 仁子
(株)テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)ニチイケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
(株)ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
(株)三井住友銀行	頭取CEO	髙島 誠
三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(株)京王エージェンシー	代表取締役社長	大里 公二
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹
(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援のお願い

2020年3月、東京フィルハーモニー交響楽団は創立109年を迎えました。

1月に新シーズン開幕を迎えた東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家らと共に様々な作品に取り組み、より広く多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

ご寄附会員の種別

種別		年会費1口	
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円	※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。 その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。
	後援会員	30万円	
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円	
	フィルハーモニー	50万円	
	シンフォニー	30万円	
	コンチェルト	10万円	
	ラプソディ	5万円	
	インテルメッツォ	3万円	
	プレリュード	1万円	

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当（partner@tpo.or.jp）までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部（担当：星野・鹿又（かのまた））
電話：03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール：partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ･ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ･ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業ー巡回公演事業ー」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道･東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童･生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東･東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童･生徒に音楽をお届けしました。

小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。チケット寄附の詳細は次ページをご参照ください。

定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン･ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)　©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までご連絡ください。

ご来場いただけなくなったチケットをご寄附ください

お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。「留学生招待シート」、「東日本大震災"とどけ心に"特別招待シート」として大切に使わせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス
電話：03-5353-9522（平日10時～18時／土日祝日休）

2月定期演奏会のチケットをご寄附いただきました。心より御礼申し上げます。
（五十音順・敬称略）
稲葉順一、佐々木三春、塩澤千代、並木淑子、高橋正好、羽石史生、福田亜紀、藤木乃利子、船久保まゆみ、Hdb、丸山紀子、山下幸徳、和久本雅彦、他、匿名希望20名

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業として大切なクライアントを招いたコンサートを開きたい
- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 海外進出に伴いコンサート&レセプションパーティーを開きたい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

東京オペラシティコンサートホールロビーにて。日本酒の試飲コーナーを設けました　©上野隆文

日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

どうぞお気軽にご用命ください。

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
電話：03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約130名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン･ミョンフン、首席指揮者アンドレア･バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル･プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ･バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 130 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS　**https://www.tpo.or.jp/**

©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員
Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

栃本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

津田 好美
Yoshimi Tsuda

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

二宮 純
Jun Ninomiya

廣澤 育美
Ikumi Hirosawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 眞里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

山内 祐子☆
Yuko Yamanouchi

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

高木 祐香
Yuuka Takagi

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邉 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

髙平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曽和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos

金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki
服部 誠◎
Makoto Hattori
渡邉 辰紀◎
Tatsuki Watanabe
黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa
高麗 正史☆
Masashi Korai
石川 剛
Go Ishikawa
大内 麻央
Mao Ouchi
太田 徹
Tetsu Ota
菊池 武英
Takehide Kikuchi
佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki
長谷川 陽子
Yoko Hasegawa
渡邊 文月
Fuzuki Watanabe

コントラバス
Contrabasses

片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka
黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki
小笠原 茅乃○
Kayano Ogasawara
遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo
岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto
小栗 亮太
Ryota Oguri
熊谷 麻弥
Maya Kumagai
菅原 政彦
Masahiko Sugawara
田邊 朋美
Tomomi Tanabe
中村 元優
Motomasa Nakamura

フルート
Flutes

神田 勇哉◎
Yuya Kanda
斉藤 和志◎
Kazushi Saito
吉岡 アカリ◎
Akari Yoshioka
さかはし 矢波
Yanami Sakahashi
下払 桐子
Kiriko Shimobarai
名雪 裕伸
Hironobu Nayuki

オーボエ
Oboes

荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa
加瀬 孝宏◎
Takahiro Kase
佐竹 正史◎
Masashi Satake
杉本 真木
Maki Sugimoto
三谷 真紀
Maki Mitani
若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashi

クラリネット
Clarinets

チョ・スンホ◎
Sungho Cho
アレッサンドロ・ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari
万行 千秋◎
Chiaki Mangyo
黒尾 文恵
Fumie Kuroo
林 直樹
Naoki Hayashi

ファゴット
Bassoons

大澤 昌生◎
Masao Osawa
チェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe
廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata
井村 裕美
Hiromi Imura
桔川 由美
Yumi Kikkawa
森 純一
Junichi Mori

ホルン
Horns

磯部 保彦◎
Yasuhiko Isobe
齋藤 雄介◎
Yusuke Saito
高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi
今井 彰
Akira Imai
大東 周
Shu Ohigashi
木村 俊介
Shunsuke Kimura
田場 英子
Eiko Taba
塚田 聡
Satoshi Tsukada
豊田 万紀
Maki Toyoda
古野 淳
Jun Furuno
山内 研自
Kenji Yamanouchi
山本 友宏
Tomohiro Yamamoto

トランペット
Trumpets

川田 修一◎
Shuichi Kawata
野田 亮◎
Ryo Noda
古田 俊博◎
Toshihiro Furuta
重井 吉彦
Yoshihiko Shigei
杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama
前田 寛人
Hirohito Maeda

トロンボーン
Trombones

五箇 正明◎
Masaaki Goka
中西 和泉◎
Izumi Nakanishi
辻 姫子○
Himeko Tsuji
石川 浩
Hiroshi Ishikawa
平田 慎
Shin Hirata
山内 正博
Masahiro Yamauchi

テューバ
Tubas

大塚 哲也
Tetsuya Otsuka
荻野 晋
Shin Ogino

ティンパニ&パーカッション
Timpani & Percussion

岡部 亮登◎
Ryoto Okabe
塩田 拓郎◎
Takuro Shiota
高野 和彦○
Kazuhiko Takano
木村 達志
Tatsushi Kimura
鷹羽 香緒里
Kaori Takaba
縄田 喜久子
Kikuko Nawata
船迫 優子
Yuko Funasako
古谷 はるみ
Harumi Furuya

ハープ
Harps

梶 彩乃
Ayano Kaji
田島 緑
Midori Tajima
宮原 真弓
Mayumi Miyahara

ライブラリアン
Librarians

武田 基樹
Motoki Takeda
永井 玉藻
Tamamo Nagai

ステージマネージャー
Stage Managers

稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka
大田 淳志
Atsushi Ota
古谷 寛
Hiroshi Furuya

◎首席奏者
Principal

○副首席奏者
Assistant Principal

☆フォアシュピーラー
Vorspieler

役員等·事務局·団友

役員等（理事·監事および評議員）

理事長
三木谷 浩史

副理事長
黒柳 徹子

専務理事
石丸 恭一

常務理事
工藤 真実

理事
浮舟 邦彦
大賀 昭雄
大塚 雄二郎
小山田 隆
篠澤 恭助
田沼 千秋
寺田 琢
遠山 敦子
野本 弘文
韓 昌祐
平井 康文
宮内 義彦

監事
岩崎 守康
山野 政彦

評議員
伊東 信一郎
海老澤 敏
佐治 信忠
鈴木 勲
鈴木 啓介
瀬谷 博道
中矢 一義
日枝 久
南 直哉

事務局

楽団長
石丸 恭一

事務局長
工藤 真実

公演事業部
市川 悠一
岩崎 井織
大久保 里香
大谷 絵梨奈
佐藤 若菜
村尾 真希子

ステージマネージャー
稲岡 宏司
大田 淳志
古谷 寛

ライブラリアン
武田 基樹

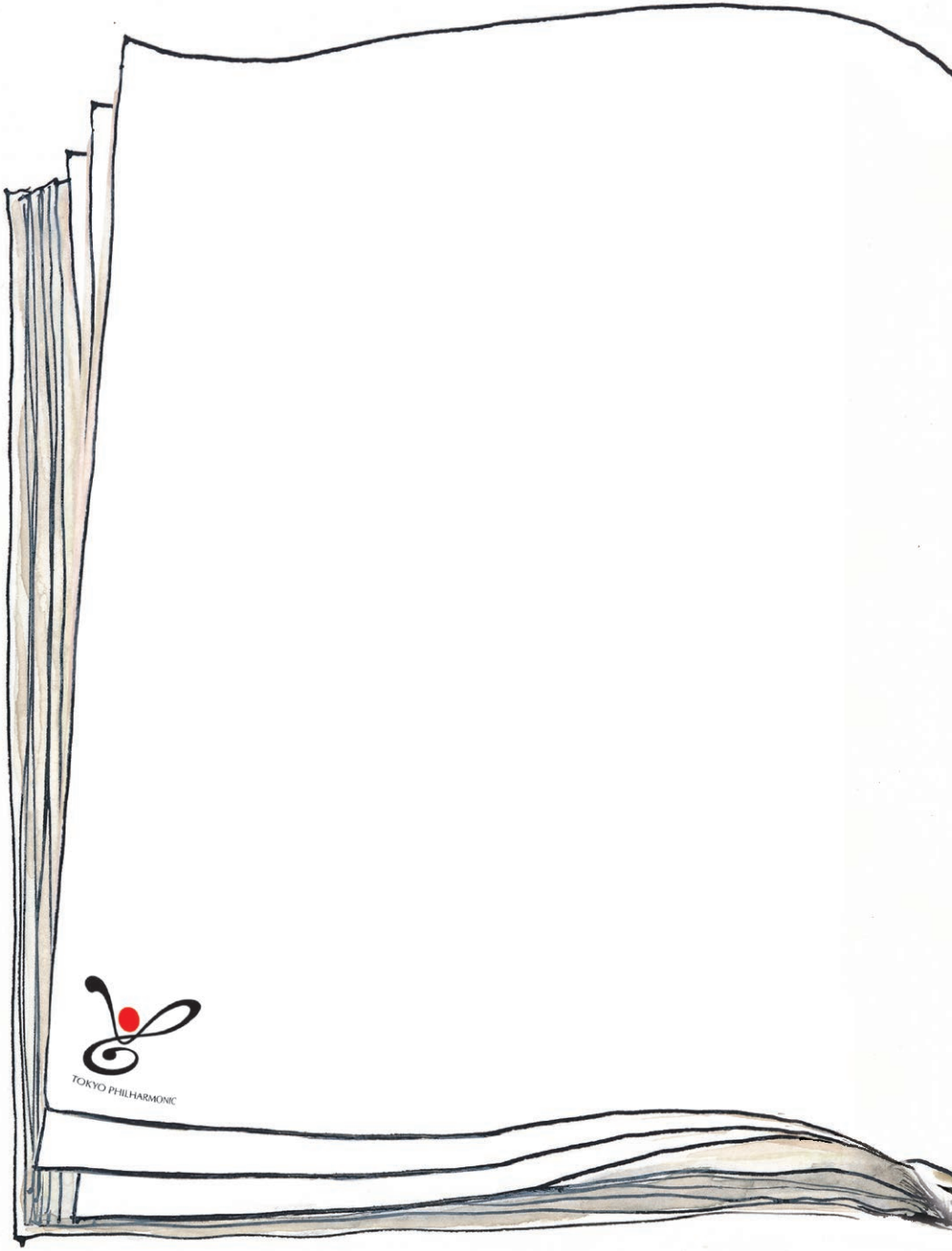
広報渉外部
伊藤 唯
鹿又 紀乃
千木 加寿子
二木 憲史
星野 友子
松井 ひさえ
安田 ひとみ

総務·経理
川原 明夫
鈴木 美絵

団友

安藤 栄作
池田 敏美
糸井 正博
井料 和彦
岩崎 龍彦
植木 佳奈
上野 眞行
生方 正好
大兼久 輝宴
大和田 皓
岡部 純
小樽 敦子
小山 智子
甲斐沢 俊昭
加藤 明広
加藤 博文
金崎 真由美
川人 洋二
木村 友博
黒川 正三
河野 啓子
近藤 勉
今野 芳雄
齊藤 匠
坂口 和子
嵯峨 正雄
嵯峨 美穂子
桜木 弘子
笹 翠
佐々木 等
佐野 恭一
清水 真佐子
瀬尾 勝保
高岩 紀子
高村 千代子
竹林 良
竹林 陽子
田中 千枝
田村 武雄
戸坂 恭毅
長池 陽次郎
長岡 愼
長倉 穣司
新田 清枝
新田 伸雄
野仲 啓之助
玻名城 昌子
福村 忠雄
藤原 勲
細川 克己
細洞 寛
本田 詩子
松澤 久美子
湊 貞男
山屋 房子
吉田 啓義
米倉 浩喜
脇屋 俊介

〈発行日〉2020（令和2）年4月12日 〈発行人〉石丸 恭一
〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523
フランチャイズ·ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市
〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎
〈印 刷〉欧文印刷株式会社
©Tokyo Philharmonic Orchestra ＊無断転載を禁ず（非売品）


TOKYO PHILHARMONIC